

## ティーチング・ステートメント

所属 薬学部薬学科

名前 大滝 康一

作成日 2022年3月22日

### 【責任】

薬学部薬物治療学分野に所属しており、薬剤師実務に関連した教育・研究活動を行っている。教育活動の主たる部分は薬と疾病に関連する科目（精神疾患、感染症、循環器疾患とその治療薬）と薬剤師実務に関連する臨床薬学実習（注射薬の混合調製や患者への服薬指導）、アドバンス実習（医薬品情報を加工する実習科目）を担当し、卒業研究指導として医薬品の副作用の発現状況の検討や医薬品情報の適正化に関する研究課題を個々の学生に与え研究に従事させている。クラス担任として数人の学生を受け持ち、受け持っている学生の学生生活や進路相談、学習方法の改善のためのアドバイスも行っている。

### 【理念】

薬剤師の業務は、患者に対して医薬品を適切に使用するために服薬指導をすることが多く、適切な指導をできることが必要であり、理由を述べながら説明できる薬剤師を養成したいと考えている。そのために日々新たな医療薬学の知識を自分で取り入れられる自己研鑽能力を醸成できるようにする。患者や他の医療職と向き合う中で未知の事柄に遭遇した場合、それを解決するための情報収集および活用能力を磨いてもらい、既存の情報でも解決できない問題に突き当たった際に、どのような形でそれを明らかにできるかの研究能力も備えることも持ち合わせられるようにし、そのための研究手法も身に着けさせることで研究を遂行できるようにしていく。

### 【方針・方法】

理念を達成するにあたり、特に暗記だけに頼る学習ではなく、真に理解してもらうことを目指した授業を展開すること、系統的な学習ができるようにすること、発展した考えや自分の知識を応用して問題を見つけ出せるようにすることを方針とする。

・暗記に頼る学習ではなく自分の知識を動員して真に理解してもらうことを目指した授業の展開

薬と疾病に関する授業を行っているが、当たり前のように使われている医療用語や専門用語、医薬品の働きについて、患者にわかりやすく伝えられるようにし、自分の言葉で伝えられることを意識づけさせるために、授業内で、種々の事項について、一般の人が理解できるレベルまでわかりやすい言葉を用いて説明するようにしている。それに加えて、今後、学生も同様なことが達成できるようにするため、簡単な患者説明のロールプレイや、なぜ、その薬が必要となるのか、薬が体内でどのように働き、その結果生体はどうなるのかという説明文を作成できる演習も取り入れるようにする。また、注射薬の混合調製の実習では、なぜそのような作業をするのか理由を伝えながら説明し、実際に取り組んでもらう時に、作業に関する質問に回答してもらいながら、単に作業にならないことを重視して伝えるようにする。あわせて実技の内容に関するペーパーテストも行い、理解の底上げを計る。

- ・ 系統的な学習ができるようにするための方策

授業ではスライドにわかりやすい表形式のスライドを多く取り入れ、それぞれの関連事項をわかりやすくする。授業の際はテキストに沿って学生がついて行きやすい授業展開を心掛ける。その上で、系統的な理解ができるような小テストを毎回行い、理解を深めてもらう。

- ・ 発展した考えや自分の知識を応用して問題を見つけ出せるようにする

学生の卒業研究では、課題を与えて、なるべく自分が考えて成果を出せるような最低限の指示だけ出すようにしている。ただ、それだけでは自分で考える力を養えないため、今後は関連する研究の論文を与え、抄録を作成してもらい、吟味できる力を身に付けさせるようにする。発展した考えを醸成するために、最終学年での総合演習では国家試験に向けた演習問題を行うが、これまでの問題とは異なる傾向の問題を取り上げたり、計算問題を入れて解説に複数の解法を示すことによりいろいろな考え方があることを学生に気づかせる。

### 【成果・評価】

- ・ 授業終了後の学生アンケートでは比較的多くの学生が授業内容に満足しているという回答が得られている。
- ・ 現在授業で取り入れている小テストは、全問正解できるまで何回でも取り組めるように設定し、多くの学生が全問正解を達成している。それにより、定期試験においても多くの学生が関連する問題で高い正答率をあげている。
- ・ 実技実習での省察レポートにおいて、実習内容が十分理解できたという学生からのコメントが多い。

### 【目標】

・知識に関する短期的な目標として、留年する学生の数を減らす。あわせて、薬剤師国家試験の合格率を上げる。特に病態・薬物治療に関連した問題の正答率の向上を目指す。

・実技に関する短期的な目標として、実務実習の指導薬剤師や就職先の先輩薬剤師から、本学の学生の知識力が高い・手技が良いという感想を多く得られるようにする。

・長期的な目標として、医療現場の薬剤師として勤務したときに、早い段階で医療チームの一員として機能し得る薬剤師の育成を目指す。あわせて中堅薬剤師となった際、後進の育成も行える薬剤師となり、常に自己研鑽に励むことを意識づけ、未知の事柄に対して自分で解決できるようにすることを目指す。